

2025 年度 事業計画書

特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会

1 事業実施の方針

昨年の TICAD 閣僚会議においてアフリカおよび日本の NGO/市民社会と共催した分野別イベント（8 月）、非会員も多く参加した創立 30 周年記念特別企画（11 月）、海外開催も含む各種会議への参加を通じて拡大・強化したネットワークに基づき、また新たな事業の開拓のため行った試みを踏まえ、従来の活動の強化、8 月に開催される TICAD 9 への積極的な参加、新規事業の開拓のため、以下の活動を行う。

1) 在日アフリカ人共生・協働事業

アフリカにルーツをもつ子ども・保護者を対象とした「アフリカンキッズクラブ」を運営し、アフリカ文化に触れ、楽しみ、自信につながる場を作る。また、ユースが主体的に運営する活動に協力し、交流や公開イベントを実施する。メディアや講演、SNS などで自分たちの思いや経験を伝えていく。在日アフリカ人の団体、なんみんフォーラム、移住連、東京近辺に在住する外国人を支援する地域団体やアフリカ人コミュニティなどと連携・協力して、難民・移民の人々と共に活動しながら、アフリカ人家庭の児童・生徒が抱える学校での勉学や進学での問題解決を含む、必要な情報提供や支援を行う。

2) ネットワーク形成事業

①国内のネットワーキング

昨年の取り組みを引き継ぎ、日本の国際協力 NGO のネットワークや、SDGs に取り組む市民社会のネットワークに参加し、政策提言や連携・協力を注力する。また、2023 年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束以降、世界的なインフレに対抗する先進国の利上げ措置などを契機に、アフリカなど途上国の債務問題が深刻になっていること、また、気候変動や SDGs 達成のために必要な資金が多額に上ることに鑑み、国際協力 NGO センター（JANIC）などと連携して、アフリカを始めとするグローバルサウスの債務問題・気候変動対策資金・開発資金の拡大に取り組むネットワークを主導し、取り組みを強化する。国際保健分野の NGO 30 団体が加盟する「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」の代表を務め、日本政府への政策提言とともに、国連の「持続可能な開発のためのハイレベル・フォーラム」（HLPF）、「非感染性疾患に関するハイレベル会合」、G20 南アフリカ・サミット等に向けて、国内外の市民社会と連携した取り組みを行う。

②世界及びアフリカ等地域レベルのネットワーキング

昨年の取り組みを引き継ぎ、保健分野では、APCASO（旧アジア太平洋地域エイズ・サービス組織評議会）やグローバルファンド活動者ネットワークアジア・太平洋（GFAN AP）の運営・意思決定に関わり、また、アフリカの国際保健政策 NGO である WACi Health、GFAN アフリカと連携して、グローバルファンドの第 8 次増資への取り組みを始め、アジア太平洋地域からアフリカを含む世界全体の国際保健政策

へのアドボカシーに取り組む。

③TICAD に関するネットワーキング

本年 8 月に開催される第 9 回アフリカ開発会議（TICAD 9）に向け、TICAD NGO 連絡グループの事務局として、アフリカの市民社会のネットワークと共に、同会議への日本・アフリカの市民社会の意味のある参加や政策提言に取り組む。

3) アフリカ調査・研究事業

①国際保健

国際保健政策に関する最新動向について、毎月調査を行い、月に 2 本の記事にまとめて AJF ウェブサイトで発表する。また、執筆した記事と、HIV/AIDS に関する最新動向についての記事 4 本をまとめたメールマガジン「グローバル・エイズ・アップデート・プラス」を月刊で発行する。また、国際保健政策やその実施の最新動向について、日本の国際保健 NGO でつくる「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」（旧・GII/IDI 懇談会 NGO 連絡会）の有志にて適宜、意見交換会を開催し、必要に応じて国際保健に関する各市民社会団体の知見を共有する勉強会を開催する。また、パンデミックへの予防・備え・対応（PPPR）については、パンデミック条約の制定・国際保健規則の改正等を踏まえて、各種の多国間交渉などにおいて提案されている事項についての調査を行い、公正な医療アクセスの実現に向けた各種の方策について研究し、提言に結びつける。

②食料・農業

食料・農業に関する調査・研究は、FAO の報告資料を研究する「FAO の資料を読む学習会」を継続して行い（毎月）、年に 4 回程度食料問題に関する公開セミナーを開催する。「世界食料デー」月間（10 月）に向けての他団体と協力しての啓発活動を実施する。

③熱帯雨林・生物多様性の保全

アフリカ熱帯林の課題に関し、野生生物保全および森林環境保護について、日本での啓発事業を進める。イベントの参加やチラシの配布、関連セミナー等の主催や告知、記事紹介等による普及啓発活動や情報提供を行う。

4) 政策提言事業

①債務問題・開発資金等に関する取り組み

ポスト・コロナ時代のインフレ・物価高騰とこれに対応する金融政策によって、グローバルサウス諸国は債務問題の深刻化に直面している。また、米国を始め、先進各国が国際協力資金を急減させる傾向にあり、債務問題の解決が遠のくとともに、気候変動資金、開発資金の減少が課題となっている。これらについて、国際協力 NGO センター（JANIC）などと連携し、関心を持つ国内外の市民社会とともに調査研究に基づく政策提言を進める。また、南アフリカ共和国がホストとなって展開する G20 プロセスなどについても、世界の市民社会の G20 への提言枠組みである「C20」（市民 20）に参加して市民社会とし

での政策提言を進める。5月に採択される「パンデミック条約」を踏まえ、パンデミックに関連する公正な医薬品アクセスの実現に向けたモニタリングや提言を行う。また、SDGs については、本年に日本の「自発的国家レビュー」（VNR）が行われることを踏まえ、国内外の各団体と協力して、市民社会の評価や意見が政策に取り入れられるよう働きかけを行う。

②グローバルファンド及び国際保健への資金に関する取り組み

本年2月から10月にかけて行われる、アフリカに資金の7割を拠出しているグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第8次増資プロセスに向け、同課題に取り組む国内外の団体やネットワークと協力して、日本政府への拠出拡大の働きかけや、各政党の理解促進に取り組む。また、その後の案件形成プロセスにおいて、日本のNGO等がグローバルサウスにおいてエイズ・結核・マラリアおよび保健システム強化への取り組みに参加できるように、セミナーの開催や、個別のコンサルティング、国レベルでの連携強化など、具体的な取り組みを積極化する。また、公正な医療アクセスを求める国内外の運動に積極的に参加し、ネットワークを強化する。グローバルファンド等への拠出促進や、アフリカにおける医薬品の研究開発・製造能力強化に向けた東アジア諸国の連携促進を目指して、東アジア諸国の市民社会ネットワークを強化する。東アジアからの国際保健政策の提言に資する市民社会プラットフォームの基盤を強化する。

③アフリカの主権・自己決定権を求める運動との協力

主権や自己決定権を求めるアフリカの人々の取り組みへの協力の一環として、西サハラの主権回復に向けて、日本の市民社会における支持拡大や、アフリカ連合の加盟国であるサハラ・アラブ民主共和国のTICAD9への招待が実現するよう、関係団体と協力して働きかける。

5) アフリカ理解促進

会報『アフリカ NOW』の発行、対面イベントでのブース出展や、「アフリカ玉手箱」を含むセミナーなどの各種イベントの企画・開催、会員交流会の開催を行う。ウェブサイトやウェブマガジンの更新・改善、SNSへの投稿などを通じて、アフリカ理解促進のための発信を行う。「アフリカニュース発掘部」として、学生インターン及びボランティアを中心に、アフリカに関する重要なトピックについての紹介を、ウェブサイトおよびメーリングリストを通して行う。

6) アフリカ支援事業

アフリカの政治的・経済的・社会的困難や環境破壊の危機などに対するアフリカの人々の自発的な取り組みへの支援・協力のための情報収集・提供、ウェビナーの開催などを行う。

7) その他：上記事業を円滑に進めるため適切な事務局運営を行う。

2024年度に改選された理事会のもとに再編された委員会を通じ、組織や活動の改善を進める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用 19,213 千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	受益 対象者 範囲	受益 対象者 人数	事業費 (千円)
在日アフリ カ人共生・ 協働事業	「アフリカンキッズクラブ」では、子どもや保護者が集い、共に楽しみ、経験・悩みを共有する場を作る。また LINE グループなどで情報交換を行い、子育てや髪のアなどについてサポートし合っていく。ウェブサイトや SNS を通して活動や情報を発信していく。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京 各居住地	13	アフリカにルーツを持つ子ども・若者・保護者、在日アフリカ人、市民	500	1,845
	「アフリカンキッズクラブ関西」では、アフロダンスやアフリカ音楽の体験イベントなどを行い、子どもたちが集う場を作る。「アフリカンキッズクラブ東海」では野外でのイベントなどを企画していく。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	関西、東 海 各居住地	15		400	
	アフリカにルーツをもつユースによる交流会やイベントを実施する。また大学での講義、情報発信などを行い、経験や思いを共有し、マイクロアグレッション、レイシャルプロフィリングなどの社会的課題について考える機会を作る。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京 各居住地	10		700	
	在日アフリカ人コミュニティと連携・協力し、セミナーやイベントなどを通し、アフリカ理解の促進、交流の輪を広げていく。また、在日アフリカ人のニーズに応え、情報提供や情報交換を行う。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京 関東 各居住地	12		800	

	なんみんフォーラムや移住連、地域の在日外国人支援団体等と連携し、生活に困難を抱える難民・移民への支援、人権擁護や政策提言などを行う。特に在日アフリカ人家庭の児童・生徒が抱えている学校での勉強や進学の問題に焦点を当てて支援し、必要に応じ伴走支援する。						
ネットワーク 形成事業	国際保健のための市民社会ネットワーク「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」や JANIC、SDGs 市民社会ネットワークなどに参加し、連携の強化や情報の共有を行う。G7、G20 や国連等のイベントの機会にアフリカの市民社会を含む世界の市民社会との連携を強化する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京、国内外の団体活動地	4	国際協力団体、国際協力に従事する個人、国際保健課題に関心のある市民	700	3,979
	TICAD-NGO 連絡グループの事務局を担い、TICAD 9 やそのフォローアップに向けた取り組みを検討する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	国際協力団体、国際協力に従事する個人、市民	70	
	国内外、個人のネットワークづくりとして夏と冬の 1 回ずつを目安に、交流会を開催する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京 各居住地	6	AJF の会員や紹介をうけた市民	70	
アフリカ調査・ 研究事業	三大感染症に取り組む東アジア市民社会の連携・協力の強化を進める。国際保健政策の最新動向について調査し、定期的に記事を執筆する。月一のペースで、メールマガジンのグローバルエイズアップデートプラスを発行する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	400	2,265
	世界食料デー月間の呼びかけ団体として他市民団体、FAO、横浜市	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京 神奈川	12	国際協力、食料・農業に関	300	

	とともにイベントを開催する。FAO の資料を読む学習会を継続し、アフリカの食と農の現状について情報発信やセミナー開催を行う。	世界食料デーは 10 月			心のある市民		
	アフリカ熱帯林地域での森林環境、野生生物、先住民族についての調査研究に基づき、地球環境の問題、関係する先住民族の社会問題等について記事紹介等による啓発活動を実施する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	3	国際協力、環境保全に関心のある市民	300	
政策提言事業	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現や、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第 8 次増資会合での十分な増資金額の確保に向けて、必要な資金拠出を行うよう、国内外の団体と共に提言を行う。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	国際協力、国際保健課題に関心のある市民	100	9,266
	公正な医療アクセスを求める運動に取り組む国内、海外の市民社会と共に、様々な機会を通して取り組みを行う。プライマリー・ヘルスケアに取り組む「世界民衆保健運動」（PHM）と連携した取り組みを強化する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	500	
	西サハラなど主権や自己決定権が脅かされているアフリカの地域や人々、団体との連携を強化し、啓発のためのセミナーやイベントの開催に協力して日本の政策の変化につなげる。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月 セミナー開催は 年に 3 回程度	東京	5	国際協力に関心のある市民	300	
アフリカ理解促進事業	会報『アフリカ NOW』を 3 回、冊子とネット（PDF ファイル）で発行する。ホームページで最新号と	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	8	会員およびアフリカに関心のある市民	900	1,770

	バックナンバーを紹介し、販売する。						
	ウェブサイトやSNSを更新し、AJFの活動とイベント等を紹介するとともに、多様な情報や資料などを提供する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	8	ウェブサイト 訪問者	7000 人/ 月	
	「グローバルフェスタ」等の国際協力関連のイベントに出展し、市民にとりアフリカを身近な存在とする	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京、他	5	会員およびア フリカに関心 のある市民	5000	
	メールマガジン「AFRICA ONLINE」を定期的（隔週月曜）に発行し、アフリカ関連イベント情報等を提供する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月 隔週月曜	東京	5	国際協力関連 のイベントの 参加者	1400	
	アフリカに関する重要なトピックについての紹介を「アフリカニュース発掘部」として行い、メーリングリストやウェブサイトを通じて月1回程度のペースで発信する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	市民、市民団 体、学生	400	
	アフリカの社会・文化やアフリカに関わるさまざまな課題を取り上げ、話し合い、交流する場として、「アフリカ玉手箱」等一般公開セミナーなどを開催する。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	市民、市民団 体、学生	150	
アフリカ 支援事業	アフリカの政治的・経済的・社会的困難や環境破壊の危機を解決するためのアフリカの人々の自発的な取り組みへの支援・協力を目的とした情報収集、発信等を行う。	2025 年 4 月～ 2026 年 3 月	東京	5	アフリカやグ ローバルな課 題に関心のあ る市民	100	5

※共通事業費 83 千円